

熊本高専八代キャンパス 感染防止対策について

感染リスクを避けることと必要な教育活動を両立させるための八代Cとしての基本方針
「あらゆる活動の実施前と実施後の手洗いとマスクの常時着用」

【感染源を断つ】

- ・毎朝の検温と健康チェックシステムへの入力。
 - 毎朝、登校前は検温し、健康チェックシステムにおいて、formsにより体温と健康状況を報告してください。
- ・体調不良時は、担任または学務係に連絡して、療養してください。
 - 体調が優れない場合(体温が37.0℃以上(ただし平熱が36.5℃より高い人は平熱+0.5℃以上)、または咳や喉の痛み、倦怠感等の症状がある場合は、他の人へ感染させてしまう可能性がある、という観点から、担任または学務係に連絡し、無理して登校せずに療養してください。**ただし、体温に関しては個人差があることに鑑み、特に平熱が高い場合や体温の変動が激しい場合には、事前に担任に申請していれば個別に確認・対応します。**
 - 発熱により学校を休んだ場合は、解熱した日を0日として2日間(計3日間)は自宅で療養し、登校(帰寮)を控えてください。
 - もし、こうした理由で登校を控えてもらった場合でも、遠隔授業により自宅からでも学習可能という対応に加えて、公欠に準じた扱いとし補講が認められる(補講を受けることで欠課にならない)ことを教務委員会で確認しておりますので、皆さんの学修機会は保障されます。
- ・登校後の体調不良時は、保健室に行き指示を受けてください。
 - 学校に登校後、体調が悪くなった場合は、すぐに保健室に行き指示を受けてください。

【感染経路を断つ】

- ・登校時は予備も含めて複数枚のマスクを持参してください。
- ・学内および登下校時には以下を必ず実行してください。
 - 小まめな手洗いを心掛けてください。
 - 常にマスクを着用してください。
(熱中症の危険性がある場合や体育時で着用が適切でない場合を除きます)
もしマスクを持っていない場合は、売店で購入(1枚20円)してください。売店で購入できない場合は、保健室に行って相談してください。
マスクの位置調整をする際はゴム紐を持っておこなってください。
マスクの表面にはできる限り触れないでください。
 - 咳をする際は咳エチケットを守ってください。
 - 可能な限りのフィジカルディスタンスを確保してください。
(できれば2m、もし難しい場合は1mを目安に可能な限りの距離)

➤ 向かい合っでの会話は避けてください。

➤ 私物（タオル、ハンカチ、文房具等）の貸し借りは避けてください。

➤ トイレの便座は座る前に除菌してください。

➤ トイレの蓋を閉めて水を流してください。

➤ 昼休みの一斉清掃活動後や、ゴミ捨ての作業後は、必ず手洗いもしくは手指消毒をしてください。

➤ 教室の換気を心がけてください。

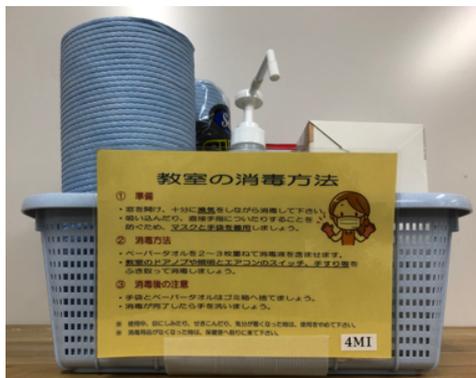
- ・ 原則として、24時間換気システムは常時可動、教室のドアは常にすべて開放、ブラインドは常時上げたままでお願いします。
- ・ 窓についても、エアコンを使用していない時はすべて開放してください。
- ・ もし豪雨等で一時的に窓を閉める場合も、状況が改善次第、すみやかに開放してください。
- ・ エアコン使用時については、ドアと窓を10cm程度開けて換気を確保してください。
- ・ 可能であれば、授業中、30分に一回程度の頻度で5分程度開放することが望ましいので、教員の指示に従って窓を開放してください。
- ・ 窓は、最初に登校してきた学生か日直が開放してください。

➤ 向かい合っでの食事をしないようにしてください。

- ・ 昼食時もフィジカルディスタンスを守り、向かい合っでの食事をしないようにしてください。
- 教室の手に触れる場所（ドアノブ・開閉レバー・電灯のスイッチ）を定期的に消毒してください。
- ・ 日直は、放課後に、教室のドアノブ・窓の開閉レバー・電灯のスイッチ・エアコンの操作スイッチを付属の「教室の消毒方法」に沿って消毒してください。
 - ・ 消毒後の廃棄物はゴミ袋に入れて、教室に設置している専用の蓋付きゴミ箱に捨ててください。
 - ・ 消耗品が無くなりそうな場合は、保健室に補充に行ってください。保健室が不在の場合は、学務課にその旨を伝えてください。
 - ・ 最後に教室を出る際、誰も居ない場合は窓を閉めてください。

【各教室には、共用部分の消毒用に、除菌シート（アルコールまたは界面活性剤とペーパータオル）・使い捨て手袋・使い捨てマスク・ゴミ袋をカゴに入れて準備しています】

※自分の机や個人的な持ち物を消毒したい場合は、自分で消毒用品を持参してください。



・放課後の帰宅

➤ 特に用事がない場合は、授業が終わり次第、速やかに帰宅してください。

➤ もし公共交通機関の時刻や保護者等の迎えのため、しばらく教室に残る場合も、フィジカルディスタンスの確保等の感染防止対策を取ってください。

➤ 最後の学生は窓を閉めてから帰宅してください。

・実験・実習について

➤ 実験・実習中の感染防止対策については、各科ごとに別途準備している資料を参照してください。

・新型コロナウイルス接触確認アプリ（COCOA）のインストールについて

➤ 厚生労働省が開発した上記アプリを差し支えなければインストールしてください。



Google Play



App Store

・部活動について

- 全学生対面登校期間中は、原則として部活動の実施を認めますが、事前に部活動感染防止計画書を作成し、学生委員会に提出して許可を得てください。
- 活動中は感染防止に努めてください。感染防止対策が履行されていない場合は部活動を停止する場合があります。
- 毎週、活動報告書を提出してください。
- 新型コロナウイルスの状況によっては、事前の予告なしに部活動を停止する場合があります。

【抵抗力を高める】

・健康を維持してください。

「十分な睡眠」「適度な運動」「バランスの取れた食事」を心がけ、健康を維持してください。

MI 科工学実験・実習における感染対策注意事項

【学生間の距離について】

- ・原則は適度な距離(1m 程度)を保つ。教員も作業確認の際に不用意に近づかない。
 - ・グループ作業では、①マスクの着用を徹底し、②向かい合っでの会話を避け、③文房具の貸し借りや資料・レポートの回し読みも極力行わない。
- 加えて、フェイスシールドも着用する。(学校より配布)
- ※マスクは飛沫が飛ぶのを防ぐ。フェイスシールドは飛沫がかかるのを防ぐ。
- 役割が違うので、両方の着用が基本となる。
- フェイスシールドの着用を避ける場合でも、飛沫防止のために防護メガネを着用する。

【機器・道具の使用について】

- ・機器・道具の配布は教員が行い、学生間での手渡しを避ける。
- ・共通の機器・道具を使用する場合は、グループ間での使用を徹底し、グループを超えた使用は避け、避けられない場合にはこまめな消毒を徹底する。
- ・授業開始前後も含め、小まめな手洗いを実施する。
特に授業前の“感染させない”ための手洗いと、授業後の“感染しない”ための手洗いは徹底して行うこと。
- ・可能な限り機器・道具は使用前と使用後に消毒を行う。
その際、手荒れを避けるため手袋の着用を推奨。

【手洗いに関して】

- ・手洗い後、服で拭いては意味がないのでハンカチを忘れないように。
- ・首掛けタオルは服と同じでどこでウイルスが付着しているか分からないので手を拭くのには使えないので注意。

【換気】

- ・エアコンをつけていない場合は窓を常時開ける。
- ・エアコン使用時も、30分に一度5分程度窓を10cm くらい開け、空気を入れ替える。
- ・換気扇を回していても大きく空気を動かすために窓を開けることを推奨。
- ・扇風機は換気の促進を意識した配置が望ましい。
- ・換気が行えない状況においては、特に学生間の距離に気を付け、可能になり次第速やかな換気を実施する。

AC科の実験・実習における感染予防マニュアル



重要なことは「感染症の予防」と「感染症が発生した場合にその拡大を防ぐこと」である。感染症を予防するためには、衛生的な環境を維持し、手洗いなどを励行する。

1. 実習前の準備

- 石鹼などで手を洗う。
- マスクを着用する。マスクは鼻から顎までを充分覆い、隙間を作らないようにする。
- 学生は発熱や倦怠感などの風邪の症状があれば欠席する。その際、メール・TeamsのDM等で指導教員に連絡を行うこと。その後、速やかに帰宅または医療機関の受診とする。連絡を受けた教員は、担任と保健室に連絡を行う。
- 学生は実習服の着替えなどで移動する際は、手を洗ったのちに可能な限り手（の平）を使わずにドアの開閉を行うものとする。
- 室内での実験・実習では、できるだけ窓やドアを開けて換気を行う。
- 指導教員は、道具やドアノブに学生が触れなくて済むように工夫するか、可能であればアルコール消毒液もしくは石鹼水で拭き取る。

2. 実習中

- 室内での実験・実習では、できるだけ窓やドアを開けて換気を行う。
- 特にグループ・班の間はなるべく距離を開ける。
- 鉛筆やペンやノートの貸し借りをしない。筆記用具を持参すること。
- 可能な限り、顔を触らない。
- 教員以外は大声を出さない。
- 実習中に風邪の症状を自覚した学生は、指導教員にそのことを伝え、その指示に従う。
- 頭痛やめまいなどの熱中症の症状を自覚した者も同様とする。
- 教員は体調不良者が居ないか注意する。

3. 実習中のトイレについて

- トイレの後は石鹼による手洗いを徹底する。

4. 実習後

- 道具を片付ける際、可能であればアルコールを含む除菌シートで表面を軽く拭き取る。その際、作業の前に作業者の手を拭き取ること。
- 必要に応じ、備え付けの除菌清掃用マスクと除菌清掃用手袋を使用する。
- 使用済みの除菌シート、マスク、手袋はナイロン袋に入れ口を縛り所定の場所に廃棄すること。
- 手洗い・うがいを行う
- レポートの作成は、特に指示の無い限り自身のパソコン使用を基本とする。
- 共同利用のPCを使う場合は、使用中に顔を触らない様に気を付けること。また、使用後は手を石鹼でよく洗う。消毒については演習室の指示に従う。（消毒不可な機器に注意）
- 手書きレポートの採点において、教員は扱う机を限定し採点後は手を洗うこと。

【適度な距離 (1 m 程度) を開けることが難しい状況に対して】

次の2点を徹底するように指示する。

"常にマスクを着用する"

"向かい合っの会話を避ける"

ただし、感染予防が不十分であると思われる場合、次のいずれかの対応を行う。

- ・フェイスシールド (学校で配布) を着用するように指示する。
フェイスシールド着用時もマスクの着用を基本とする。
実習の状況に応じて、フェイスシールドのみの着用も認める。
(熱中症になる可能性が危惧され、会話を控えられるときなど.)
- ・保護メガネを着用するように指示する。
学生自身による、保護メガネの準備を促す。
保護メガネを貸し出す場合は、その学年の実習期間中、貸与する。
(貸与期間、および、返却時は、学生が自身で消毒等を行うよう指示する.)

【同じ器具や機器を、多くの学生が触れることに対して】

次の点を徹底するように指示する。

"小まめな手洗いを心がける"

グループ毎に配付される器具等は、自身のグループの物のみを使用するように指示する。

共用機器等に対しては、消毒を適度に行うように指示する。

エタノール等の消毒が困難な機器は、手袋を着用するなどして使用するよう指示する。

【その他】

マスクの使い方を周知する。

- ・ノーズワイヤーがあるものは鼻の形に合わせる。隙間があると飛沫が飛散する。
- ・マスクの表面に触らない (ウイルスが付着しているかもしれない)。
- ・外す時もゴム紐を持って外し、表面に触らない。
- ・ゴム紐を外側につけて押さえることで、隙間がある程度無くして装着できる。
(多くのマスクでゴム紐が外側になる設計がされている。)

フェイスシールドの使い方を学生に周知する。

- ・使い終わったらアルコール等で消毒する。
- ・擦ってシールドに傷をつけないように気を付ける。

実習の状況に応じて、扇風機等による換気の促進を行う。

【上記以外の、全科目共通の項目】

- ・小まめな手洗いを心がけるように指示する (タオルの持参を促す)。
- ・常にマスクを着用するように指示する。
- ・向かい合っの会話を避けるように指示する。
- ・私物 (タオル、ハンカチ、文房具等) の貸し借りを避けるように指示する。
- ・ドアノブ、机、などの共用場所の消毒を適度に行うように指示する。
- ・実習室内の換気を、実習に支障が出ない程度に行うように指示する。

実習室の学生数は、20人程度を想定。